

「超短波放送(FM放送)における同一周波数放送波中継
による同期放送」に関するアンケート調査結果

「超短波放送（FM放送）における同一周波数放送波中継による同期放送」に関するアンケート調査結果

- 本アンケート調査は、「超短波放送（FM放送）における同一周波数放送波中継による同期放送」に関して、広域・県域でラジオ放送に取り組まれている事業者の皆様を対象として実施しました。
- 本アンケートは、各総合通信局（沖縄総合通信事務所を含む。）を通じて技術関係部署へ送付しました。
- 本アンケートへの回答は、各事業者の今後の計画に影響を及ぼすものではありません。あくまで技術関係部署として、今後の検討の一つに加えられるか否かを確認したものです。

○ アンケート項目

Q1：中国総合通信局において、「超短波放送（FM放送）における同一周波数放送波中継による同期放送に関する調査検討会」を開催していますが、ご存じですか。

A1：□ はい □ いいえ

Q2-1：FM放送における同期放送を実施していますか（又は関心がありますか）。

A2-1：□ 実施している → Q4へ □ 関心がある → Q2-2、Q3へ □ 実施していない（関心がない） → Q8へ

Q2-2：（Q2-1で関心があると回答された方）実施に向けた一番の課題は何ですか。（差支えない範囲内でお答えください）

A2-2：（ ）

Q3：（Q2-1で「関心がある」と回答された方）同期放送を具体的に検討されていますか。

A3：□ 検討している → Q4へ □ 検討していない → Q8へ

Q4：（Q2-1で「実施している」、Q3で「検討している」と回答された方）実施（又は検討）されている場合、それは県内（広域内）全域ですか。

A4：□ 全域で実施している → Q6へ □ 全域で検討している → Q5へ □ 一部エリアで実施している → Q7へ

※ 放送対象区域内の全域で実施している場合は、「全域で実施」を選択

※ 放送対象区域内の全域で検討している場合は、「全域で検討」を選択

※ 放送対象区域内の一部のエリア内で実施（検討）されている場合は、「一部エリア」を選択

Q5：（Q4で「全域で検討している」と回答された方）具体的な中継回線などを検討されていますか。

A5：□ 検討している → Q6へ □ 検討していない → Q8へ

Q6：（Q4で「全域で実施している」、Q5で「検討している」と回答された方）中継回線として、具体的に実施又は検討されている方式はどのような回線ですか。

A6：□ 無線中継回線（TTL回線） □ 有線回線（IP回線など） □ その他（具体的に記載ください。）（ ）

Q7：（Q4で「一部のエリア」と回答された方）中継回線として、具体的に実施又は検討されている回線はどのような回線ですか。

A7：□ 無線中継回線（TTL回線） □ 有線回線（IP回線など） □ 放送波中継 □ その他（具体的に記載ください。）（ ）

（全ての事業者の方）

Q8：「FM回り込みキャンセラー機能を内蔵したFM放送波中継装置」が実用化（技術基準などが策定）された場合、同期放送の実現に向け検討されますか。

A8：□ 検討する → Q9へ □ 検討しない → Q10へ

Q9：（Q8で「検討する」と回答された方）今後、中国総合通信局では、令和7年度において、引き続き、同システムを活用した多段中継の可能性に関して検討する予定です。多段中継が可能となった場合、同期放送は、それは、県内全域ですか。

A9：□ 全域で検討する。 □ 無線中継回線（TTL回線）、有線回線（IP回線など）を活用するが、一部エリアで検討する。

Q10：（Q8で検討しないと回答された方）差し支えない範囲内で検討されない理由をお聞かせください。

A10：（ ）

Q11：その他（本調査検討会へのご意見・ご要望などがあればお聞かせください。）

A11：（ ）

○ アンケート調査結果（調査票送付者数 99事業者、有効回答者数 91事業者）

- ・ アンケート調査の回答率は、約92%であった。
- ・ アンケート調査により本調査検討会の取組を多くの広域・県域事業者に周知することができた。
- ・ 「FM回り込みキャンセラー装置」が実用化（技術基準などが策定）された場合、同期放送の実現に向け検討されるかとの質問に対して、「検討する」と回答された事業者は34%であったと同時に「検討しない」と回答された事業者であっても「設備更新時期には検討する」などのコメントも多数寄せられた。
- ・ また、その他の意見として、「FM中継局整備等は、社内検討中。技術的な観点からの検討・情報収集は行う。」、「調査結果を詳細に共有願いたい。」、「調査検討会の成果に期待。」、「中継局設置等の検討には意義のある。」、「技術開発の知見を積極的に共有願いたい。」など「FM回り込みキャンセラー装置」への期待の意見が多数寄せられていた。

Q1：中国総合通信局において、「超短波放送（FM放送）における同一周波数放送波中継による同期放送に関する調査検討会」を開催していますが、ご存じですか。

- ・ はい 38事業者
- ・ いいえ 53事業者

※ 本アンケート調査を通じて、令和6年度調査検討会の取組を多くの関係者に周知することに繋がったものとする。
 ※ また、コミュニティ放送事業者には、日本コミュニティ放送協会を通じて周知を行うこととしている。

Q2-1：FM放送における同期放送を実施していますか（又は関心がありますか）。

- ・ 実施している 14事業者
- ・ 関心がある 41事業者
- ・ 検討していない（関心がない） 36事業者

※ 同期放送の「実施」又は「関心がある」があるが半数以上を占めており、関心の高さが伺える。
 ※ なお、検討していない（関心がない）と回答された事業者であっても多くが、『同期放送を実施するうえで、「他局への混信」、「費用対効果」、「中継回線設置コスト」』などを挙げた。

Q3：（Q2-1で「関心がある」と回答された方）同期放送を具体的に検討されていますか。

（Q2-1で「関心がある」と回答した事業者 41事業者）

- ・ 検討している 5事業者
- ・ 検討していない 36事業者

Q4：（Q2-1で「実施している」、Q3で「検討している」と回答された方）実施（又は検討）されている場合、それは県内（広域内）全域ですか。（回答できる範囲内でお願いします）

（Q2-1で「実施している」と回答した事業者 14事業者、Q3で「検討している」と回答した事業者 5事業者）

- ・ 全域で実施している 4事業者
- ・ 全域で検討している 4事業者
- ・ 一部エリア 11事業者

Q5：（Q4で「全域で検討している」と回答された方）具体的な中継回線などを検討されていますか。

（Q4で「全域で検討している」と回答された事業者 4事業者）

- ・ 検討している 3事業者
- ・ 検討していない 1事業者

Q6：（Q4で「全域で実施している」、Q5で「検討している」と回答された方）中継回線として、具体的に実施又は検討されている方式はどのような回線ですか。

（Q4で「全域で実施している」と回答された事業者 4事業者、Q5で「検討している」と回答された事業者 3事業者）

- ・ 無線中継回線（TTL回線） 3事業者
- ・ 有線回線（IP回線など） 3事業者
- ・ その他（無線中継回線＋有線回線） 1事業者

Q7：（Q4で「一部のエリア」と回答された方）中継回線として、具体的に実施又は検討されている回線はどのような回線ですか。

（Q4で「一部のエリア」と回答された事業者 11事業者）

- ・ 無線中継回線（TTL回線） 3事業者
- ・ 有線回線（IP回線など） 2事業者
- ・ 放送波中継回線 3事業者
- ・ その他（無線中継＋有線回線の複数使用） 3事業者

Q8：（全ての事業者の方）「FM回り込みキャンセラー機能を内蔵したFM放送波中継装置」が実用化（技術基準などが策定）された場合、同期放送の実現に向け検討されますか。

- ・ 検討する 34事業者
- ・ 検討しない 57事業者

※「検討しない」と回答した主な意見は、「地形的な影響から重複エリアが少ない」、「経営状況から設備投資ができない」、「中継局の置局予定がない」、「設備更新時期ではない」、「既に同期放送を実施」、「長年地域に根付いている周波数であり、周波数変更の必要がない」などであった。

※なお、「検討しない」と回答された中には、「設備更新の時には検討する」と回答された事業者もあった。

Q9：（Q8で「検討する」と回答された方）今後、中国総合通信局では、令和7年度において、引き続き、同システムを活用した多段中継の可能性に関して検討する予定です。多段中継が可能となった場合、同期放送は、それは、県内全域ですか。

（Q8で「検討する」と回答された事業者 34事業者）

- ・ 全域で検討する 15事業者
- ・ 一部エリアで検討する。 19事業者

Q11：その他（本調査検討会へのご意見・ご要望などがあればお聞かせください。）

- ・ 「FM回り込みキャンセラー機能」技術は技術基準として統一化されるのか。
- ・ 親局のみ運用中。FM中継局整備等は、社内検討中。技術的な観点からの検討・情報収集は行う。
- ・ 調査結果を詳細に共有願いたい。調査検討会の成果に期待。中継局設置等を検討には意義のある。技術開発の知見を積極的に共有願いたい。
- ・ 現用設備をどの程度改修が必要か、または、セット更新か。メーカーが限定されるか。
- ・ 周波数の有効活用への効果に期待。リスナーサービスからは周波数は同一であることが望ましい。
- ・ 現行の放送波中継と同等に利用しやすく、価格も相当であれば、有線（光）回線とキャンセラー中継を併用も検討できる。
- ・ 「FM回り込みキャンセラー装置」の実用化は、コスト削減につながる。是非とも実用化願いたい。
- ・ 「FM回り込みキャンセラー装置」の出力は100Wが可能か。導入する場合、補助事業などを活用したい。
- ・ 周波数の有効利用に繋がる同期放送実施においては、補助事業の拡大等を検討願いたい。
- ・ 同期放送の研究は技術的な知見を蓄える意味では価値あることと考えます。
- ・ 車社会でもあることからSFNの有効性に期待。機器調達コスト削減になど、事業者メリットを享受できるよう期待。
- ・ 同期放送は、聴取者へのメリットは大。コスト的に現時点で検討は難しいが、調査検討会の議論は参考したい。
- ・ 同期放送を導入しなかった理由として、回線（TTL・IP）の問題がある。放送波で実現可能であれば導入を検討する事業者は増える。期待したい。
- ・ 現在行われている同期放送の放送機と「FM回り込みキャンセラー装置」を使用した同期放送を比較した資料があれば示してほしい。